

# おまがた ニュース 解説

県教委

ネットトラブル対策に本腰

## 論説・解説

ネット利用の弊害を減らし、安全なネット利用を促す。山形県教育委員会の取り組み



報道部 大坪千絵



スマートフォン・タブレット端末の普及に伴い、子どもたちがインターネット上で遭遇する危険が増している。山形県教育委員会が、こうした危険を減らし、安全なインターネット利用を促す取り組みを始めた。

県教委は、今年度から「ネットトラブル対策」を重点施策の一つとして掲げ、県内各市町村と連携して、子どもたちへの啓発活動や、保護者への指導を行う。また、学校でもインターネット利用のルールを定め、適切な利用を促す取り組みを進めている。

ネットトラブルとは、インターネット上で発生するさまざまな危険を指す。例えば、個人情報の漏洩、詐欺、脅迫、誹謗中傷、出会い系サイトへの誘導などが挙げられる。特に、子どもたちはインターネットを通じて簡単に個人情報を提供してしまう可能性があるため、対策が急務とされている。

県教委は、こうした危険を減らすために、県内各市町村と連携して、子どもたちへの啓発活動や、保護者への指導を行う。また、学校でもインターネット利用のルールを定め、適切な利用を促す取り組みを進めている。

## 大人のネット利用実態に乖離

# ネット利用実態の乖離

【質問】毎月掲載されている「山新文学賞」の歴史を教えて

【質問】毎月掲載されている「山新文学賞」の歴史を教えてください。

(鶴岡市の男性、電話で)

## 山新文学賞の歴史

山新文学賞は、昭和23年に創設された。当初は、山形県内の作家を対象とした賞であったが、次第に全国的な作家にも目を向けるようになった。賞の趣旨は、文学の発展と作家の育成にある。毎年、小説、詩、評論の3部門で作品を募集し、審査員による選考が行われる。受賞作品は、山形新聞に掲載される。賞金は、受賞者に対して贈られる。山新文学賞は、山形県内外の作家から多くの応募を受け、盛況を博している。賞の歴史は、山形県の文学界の発展と密接に関連している。

## ゲームで新しい読書文化

ゲームの世界には、新しい読書文化が生まれている。デジタル技術の進歩により、従来の紙媒体とは異なる読書体験が可能になった。例えば、電子書籍やオーディオブック、AR（拡張現実）を活用した読書アプリなどが登場している。これらは、読者の興味や嗜好に合わせて、より没入感のある読書体験を提供している。また、ゲーム内での読書体験も人気を集めている。読者は、ゲームの世界で物語の世界に入り込むことができる。これは、従来の読書とは異なる、新しい読書文化の現れである。

読者のさまざまな声に答えます。紙面に対する意見や提言、疑問、質問などをお寄せください。送り先は〒990-8550 山形市旅籠町2の5の12 山形新聞読者センター。電話023(622)5666。Eメールフレンドkusha@yamagata-np.jp